

**(高血圧症) アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬 (ARB) 院内フォーミュラリ**

	第一推奨				第二推奨	
一般名	テルミサルタン		アジルサルタン		オルメサルタン メドキシミル	
商品名	GE：テルミサルタンOD錠「物イ」	先発：ミカルティス®錠	GE：アジルサルタンOD錠「アジワ」	先発：アジルバ®錠	GE：オルメサルタンOD錠「DSEP」	先発：オルメテック®OD錠
外観						
標準的1日薬価	10.4 円 (40mg/日)	32.1 円 (40mg/日)	27.4 円 (20mg/日)	76.3 円 (20mg/日)	18.0 円 (20mg/日)	31.9 円 (20mg/日)
効能・効果	高血圧症		高血圧症		高血圧症	
用法	1日1回 経口投与		1日1回 経口投与		1日1回 経口投与	
用量	1回40mg (最大：80mg)		1回20mg (最大：40mg)		1回10～20mg (最大：40mg)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>添付文書では、導入初期用量は20mgからと記載されている</li> <li>大部分が胆汁を介して糞中に排泄される</li> <li>代謝にCYPの関与がない(相互作用が少ない)</li> <li>英国及び米国では「心血管リスク低下」の適応承認あり</li> <li>口腔内崩壊錠が販売されており、服用しやすい(GEのみ)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本での最大用量40mgにおいては、他のARBよりも降圧効果が高いとの報告がある</li> <li>複数の経路で代謝される(未変化体累積尿中排泄率15.1%)</li> <li>半減期がオルメサルタンよりも長い(9.9h &gt; 7.6h)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>承認用量での降圧効果が高い</li> <li>糞中に64.6～89.6%、尿中に9.9～16.3%が排泄される</li> <li>代謝にCYPの関与がない(相互作用が少ない)</li> <li>口腔内崩壊錠が販売されており、服用しやすい</li> </ul>	
略語	GE：後発品、CYP：チトクロームP450、OD錠：口腔内崩壊錠					

**解説**

**有効性・安全性**

- 日本では、2021年12月時点で、7種類(アジルサルタン、イルベサルタン、オルメサルタン、カンデサルタン、テルミサルタン、バルサルタン、ロサルタン)のARBが発売されている。
- 日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライン2025」などの国内のガイドラインにおいて、使い分けについて明記されていない。
- 米国心臓協会(AHA)のガイドラインでは、アジルサルタンは他のARBと比較して、24時間自由行動下血圧測定における血圧降下作用があるとの記載がある(ただし、米国で承認されているのはプロドラッグ)。

**推奨理由**

- 有効性、安全性、各薬剤の特徴(上記)、処方実績を考慮し、第一推奨をテルミサルタン、アジルサルタンとした。降圧効果と半減期を考慮して、オルメサルタンは第二推奨とした。
- ※成人の高血圧症に対するフォーミュラリであることに留意すること

**推奨以外のARBについて**

- ARBの降圧効果の強弱について  
ロサルタン<イルベサルタン、カンデサルタン、テルミサルタン、バルサルタン<オルメサルタン<アジルサルタン

下記の理由により、当院フォーミュラリには掲載していない

- イルベサルタン：適応症は高血圧症のみであり、推奨薬と同様。当院採用は普通錠。また、当院における処方実績が高くない。
- バルサルタン：適応症は高血圧症のみであり、推奨薬と同様。半減期が短く、当院採用は普通錠。当院では、エンレスト錠への切り替え前に処方される傾向がある。
- ロサルタン：半減期が短く、当院採用が普通錠。降圧効果より腎保護作用を目的に使用される頻度が高い。
- カンデサルタン：院内採用がない。